

再評価項目調書

[illegible]

2 再評価の視点	(2) 事業の投資効果	費用対効果分析等	(単位：百万円)				大項目 評 価 A ・ B ・ C		
			区分	主な項目	前 回 (基準年：R2)	今 回 (再々評価) (基準年：R7)		備 考	
					全体事業	全体事業			残事業
			便益 (B)	①一般資産被害軽減便益	2,406	5,128		3,812	
				②農作物被害軽減便益	1,598	2,448		2,363	
③公共土木施設等被害軽減便益	4,404	13,865		11,300					
④その他の便益	25	25		35					
総便益	8,433	21,466		17,510					
費用 (C)	①事業費	4,585	5,631	3,113					
	②維持管理費	489	601	348					
	総費用	5,074	6,232	3,461					
費用便益比 (B/C)		1.7	3.4	5.1					
※ 便益(B)・費用(C)は、算出した各年次の値を割引率を用いて現在価値に換算した合計額 【費用対効果分析手法】 ○根拠マニュアル ・海岸事業の費用便益分析指針 平成16年6月 (令和6年2月 一部変更) ・治水経済調査マニュアル(案) 令和6年4月 国土交通省水管理・国土保全局 ○各便益の説明 ①一般資産被害軽減便益 : 整備により軽減される家屋、事務所、農漁家の資産被害額 ②農作物被害軽減便益 : 整備により軽減される農作物被害額 ③公共土木施設等被害軽減便益 : 整備により軽減される公共土木施設等(道路、農地、農業用施設等)の被害額 ④その他の便益 : 施設の残存価値									
3 環境	(3) 事業の進捗	事業の進捗と今後の見通し	事業延長970mのうち、JR 山陽本線橋梁から ^{さんようほんせんきょうりょう} 県道高井大道停車場線 ^{けんどうたかいだうていしやじょうせん} 横曽根橋 ^{よこそねはし} 付近までの約200mの防潮堤の整備及び横曽根橋の架替えが完了しており、高潮に対する防護機能が向上している。 引き続き、上流に向けて高潮対策を行い、浸水被害の軽減に努める。				大項目 評 価 A ・ B ・ C		
		【事業費の変化】 有 (無)							
		【事業期間の変化】 有 (無)							
(4) コスト削減	代替案等の可能性	コスト削減	発生した土砂については、当該事業及び周辺の公共事業と調整して流用することにより、コスト削減を図る。				中項目 評 価 a・b	大項目 評 価 A ・ B ・ C	
		代 替 案	経済性や周辺への影響等を総合的に勘案し、最適な河川整備計画を策定していることから、現計画どおり進めることが妥当である。				中項目 評 価 a・b		
4 対応方針	(事業実施主体案)	配 慮 事 項	・低騒音・低振動の建設機械を使用する。 ・汚濁防止対策として、河川内工事に際しては、汚濁防止膜等を設置する。 ・河道掘削を実施する際は、みお筋や瀬、淵を形成し動植物の多様な生息・生育環境に配慮する。						
		総 合 評 価	● 継続 ○ 見直し継続 ○ 中止						
		評 価 理 由	事業の必要性、費用対効果等を勘案し、事業継続が妥当と判断する。						
		備 考							

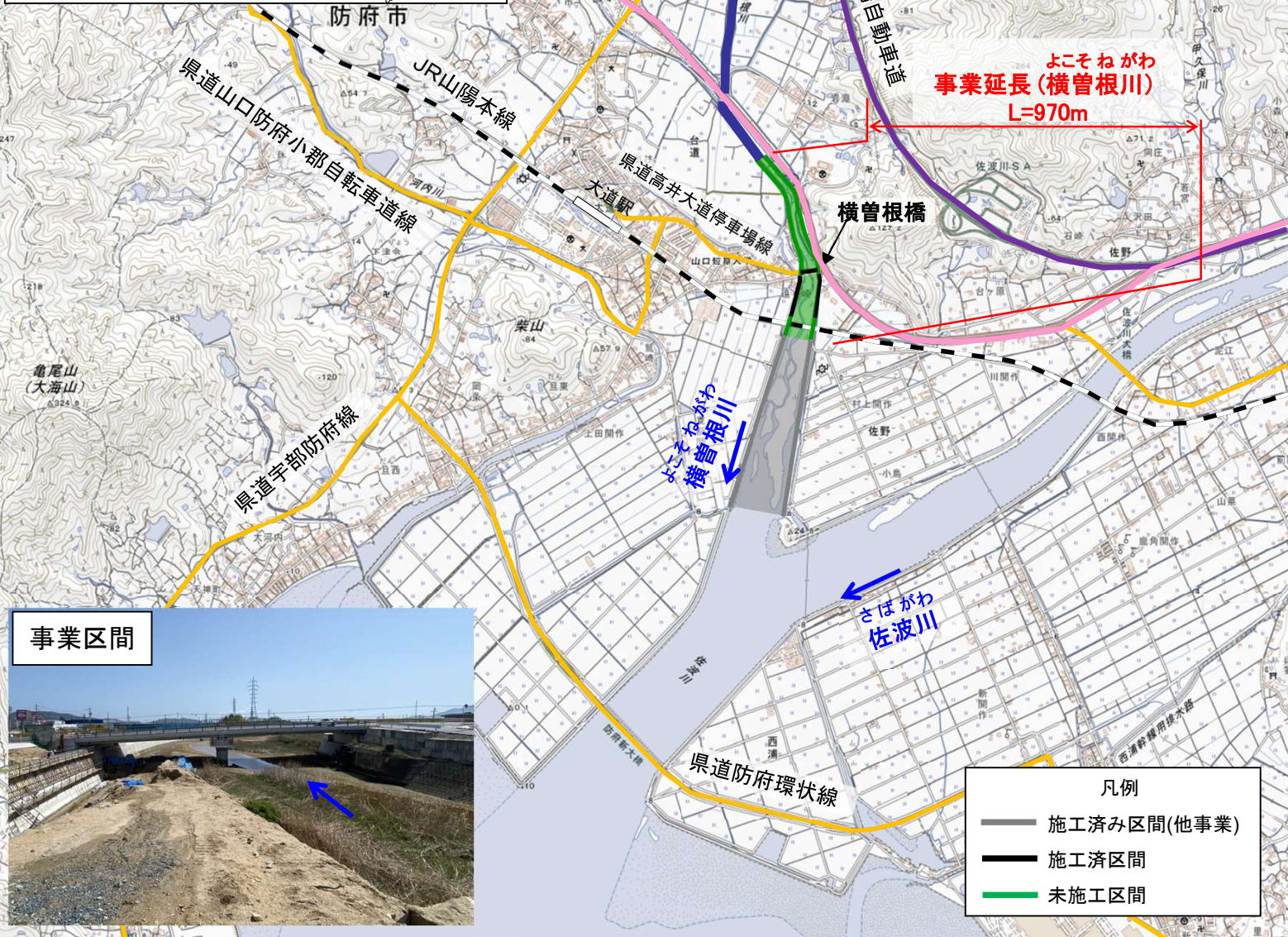
よこそねがわ 横曽根川 周防高潮対策事業



過去の浸水状況 (H11.9)



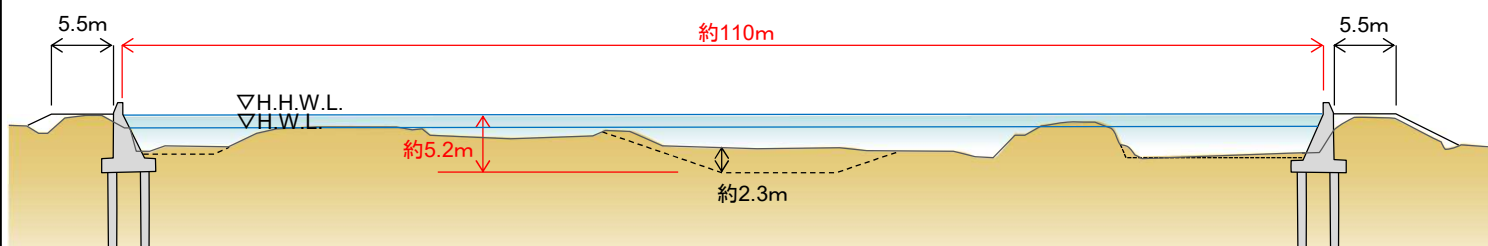
よこそねがわ
事業延長 (横曽根川)
L=970m



事業区間



標準断面図 (横曽根橋下流付近)



この地図は、国土地理院の地理院地図(電子国土Web)の一部を掲載したものである。